

令和 7 年度 国際交流センター事業報告

令和 8 年 4 月 28 日
国際交流推進委員会 報告

NEXT30 の「国際化」のアクションプラン、特に、「スポーツ・武道を通じた国際交流」を推進し、「スポーツ・武道の文化を海外に発信する」力を養成するため、国際交流センターでは、学生の外国語のコミュニケーション能力や異文化理解の力の向上を目的として、令和 7 年度に以下の事業を行った。

1. 事業報告

① 施行 5 年目になるユニークな英語カリキュラムに基づく英語の授業及び「異文化理解」の授業の継続と評価

英語カリキュラムに基づくユニークな英語の授業(例:スポーツ英語、海外留学、海外で暮らす、オリンピック、プレゼンテーション入門など)を継続し、プレイスメントテストとアチーブメントテストの結果等を用いてカリキュラムの評価した。

現行カリキュラムでの授業内容等に問題はないと評価できたが、受講生がよりスムーズに英語科目を履修できるようにするため、授業科目のレベル及び種類の一部をマイナーチェンジすることを決め、一部は令和 6 年度より、他は教務委員会で審議了承されたため、令和 7 年度の授業より実施した。

また、「異文化理解」の授業をセンター教員によるオムニバス形式で実施した。

② マンツーマン英語指導

海外の武道やスポーツの実践者との交流や海外短期研修参加を希望する学生、英語力を伸ばしたい学生を対象に、異文化理解を含めた英語コミュニケーション力向上のための指導を、国際交流センターの教員がマンツーマンで実施し、週あたり約 10 名が参加した。

③ T.E.A.M. (Teaching English for Athletic Minds)

令和 6 年度から、学生・教職員を対象に、参加者の多様な要望に即した 1 セッション 15 分のレッスンを開始し、令和 7 年度も引き続き実施した。

④ 留学フェア

第1回留学フェア(JICA 海外協力隊連携派遣 2024 年度活動報告会)を 7 月に実施し、2025 年 2 月から約1か月間にわたりペルー共和国で短期隊員として柔道の指導にあたった2名の学生が、報告を行った。JICA 本部、JICA ペルー事務所とオンラインで接続し、活動の成果を共有した。

12 月には第2回留学フェア「Brown Bag Session 一留学経験者に話を聴いてみよう」と題し、在学中に海外で学びや活動を経験し、帰国後も本学で学びを続けている学生2名が、海外での体験と帰国後の学びや意識の変化について講話を行った。なお、初の試みとして昼食時間帯の開催のため、Brown Bag 形式(昼食

を持参し気軽に参加する形式)で実施し、学生・教職員併せて 19 名が参加した。留学や海外での活動、語学学習に関心を持つ多くの学生に、ネットワーク作りとグローバルマインドの養成につながる機会を提供した。

⑤ 留学生と日本人学生との交流促進

留学生と日本人学生とのスポーツ・武道を通じた交流イベントとして、令和 7 年 6 月に「ドッチビーで交流しよう！」を開催し、留学生 6 名、日本人学生 9 名がニュースポーツであるドッチビーを通して親睦を深めた。
また、国際交流センターの廊下に留学生を紹介する大きなポスターを掲示し、校内での留学生の認知度を高め、交流を促進した。

⑥ 英語プレイスメントテスト、アチーブメントテスト、TOEIC IP の実施

下記を実施した。

- ・ 新入生対象のプレイスメントテスト(令和 7 年 4 月 1 日)
- ・ 8 単位履修修了者対象のアチーブメントテスト(令和 8 年 1 月 15 日～2 月 19 日 計 93 名)
- ・ SS・推薦入試入学者対象のプレイスメントテスト(令和 8 年 3 月 2 日～3 月 27 日 計 83 名)
- ・ TOEIC IP テスト (5 月 10 日、7 月 5 日、9 月 6 日、11 月 22 日、2026 年 1 月 31 日 計 5 回)

⑦ 交流協定校との交流事業

令和 7 年度は通年で 4 名の交換留学生を受け入れた。このうち天津体育学院からは、学生交流協定締結後、昨年初めての学生を受け入れたが、本年度も継続的に 1 名を受け入れた。また、韓国体育大学校からは、コロナ禍(2020 年度)以降初めての留学生の受け入れとなった。

⑧ 公開講座

地域の英語教育の質を向上させるための公開講座「Thoughtful Talks(2): Sharing Ideas on Familiar Topics in English～脳内に話題のフォルダーを作ろう！(2)～」を、5 月 14 日～6 月 11 日まで計 5 回にわたりオンラインで実施した。

⑨ LECS:Lunchtime English Conversation Seminar

教員向けのランチタイム英会話セッション(LECS:Lunchtime English Conversation Seminar)を企画し、後期に LECS9 及び LECS10(各 4 回程度のセッション)を実施した(エルメス准教授)。

⑩ JICA 海外協力隊連携派遣の実施

本学と JICA との間で締結した連携派遣覚書を基に、2 年目の短期隊員の推薦、Web 応募、1 次・2 次選考の手続きを進めたが、合格者 2 名が参加を辞退したため 2 年目の短期隊員の派遣を見送る結果となった。同連携派遣の長期隊員選考にお

いては、本学柔道部卒業生1名が合格し、2カ月間に及び合宿で訓練を経て2026年の4月より、ペルー共和国に2年間派遣されることとなった。併せて、2026年度短期隊員の応募日程が例年よりも1か月前倒しとなったことから、2月から次期3年目の短期隊員の応募に向けて、柔道部内で候補者を募り、語学支援や学内推薦の手続きを柔道部と協力して進めた。

⑪ その他

NIFS NEXT30のミッションに関連し、他センター及び他部署における国際交流事業を支援した。

2. 予算執行額

①国際交流センター経費(配分額:624,000円)

区分	金額	算出内訳
人件費	8,240円	学生アルバイト雇用(留学フェア)
物品費	326,700円	英語テスト
その他	256,896円	講義室物品、消耗品、ChatGPT Plus サブスクリプション
計	591,836円	

②重点プロジェクト事業経費：スポーツや武道の学術的・文化的価値を発信する人材の基礎力養成(配分額:3,712,000円)

区分	金額	算出内訳
人件費	1,774,733円	特任専門員雇用経費
物品費	19,800円	英語テスト
旅費	13,200円	JICA 連携派遣引率、指導旅費
計	1,807,733円	